

2008.08.21：経済環境委員会

「仙台・宮城デスティネーションキャンペーンについて」

池田友信委員

このDCは10月から3カ月間という形になっておりますが、過去にDCに取り組んできたところを見て、その後の地域の盛り上がりとかについて。結果として3カ月間はJRが全面的に宣伝をしてあげますよと。問題はそういうきっかけを、いかにして行政と民間が、そのチャンスを生かして、その中でも一つのPR活動、観光活動、そして自分たちの都市を愛すると。こういうふうな運動になっていくための3カ月間だと思うんですね。問題は、その期間を過ぎても、ある意味では大きなうねりになるような形が、私は大事なことはないかなというふうに思います。

今回のこのキーワードを見ますと、やっぱり、美味し国、伊達な旅、むすび丸という、やはり伊達政宗公との、仙台をつくったまちの文化というか、そういうことをいかに理解していくかと。県外から来られた方もこの機会に仙台に、あるいは宮城に行こうという背景の一つには、伊達政宗という人はどういう人だったのかと。こういうことを知るか知らないかによって、行って見て非常に奥深い、いいまちだと。こういうことを知らせる、あるいは知る、そういうきっかけが、私は大変大事なことだと思うんです。そこで、1ページにあります、問題は現在の自然環境、あるいは現在ある町並みの資源とかがありますが、真ん中の、この歴史文化資産という、現在ある文化資産ではなくて、過去の歴史の文化の理解というものをどういうふうに知らしめていくか、あるいは掘り起こしていくかと、こういうことが大事だと思うんですね。それを知れば知るほど奥深いなど。伊達政宗の文化、思想というか、町並みの中に文化があるということをもっと掘り起こすべきだ、知らせるべきだということをつくづく感じるんですが、この中で仙台城、瑞鳳殿などがありますけれども、一番のキーポイントは、凝縮してわかる場所は博物館なんです。幸い、博物館では9月13日から11月3日まで伊達政宗展というのをやるんです。そういうものにこれを結びつけて、コースとして入れてですね、そこで時間があればひとつ博物館で伊達政宗像あるいは仙台の歴史、そういったことに対する理解を深めて、そしてまちを見てくださいと。こういうふうに、コースにぜひ生かすべきだと私は思うんです。今、博物館の中でも、伊達政宗歴史展をどんな形で展示するのか、どんな資料を出すのかということを論議しています。それに私も入ってますが、やはりそういう部分では知られていない、戦ばかりではなくて、もっと子供のころから、あるいは忘れがちであります。隠居後の正宗の伊達の国を守るための政策とかが埋もれておりますけれども、大変大事なとこ

ろがあるんですね。例えば、戦国時代が終わった後、伊達藩を守るためには、何としても江戸前を伊達の米で、3分の2以上占めたら、伊達藩をつぶすことは絶対にできない、そういう政策をしよう、こういうようなことを着々とやっていたわけです。そういうことも考えていくと、私は歴史背景ということも、このコースの中にぜひ博物館というのを入れて、それで、そういった史跡を見てもらおうと。こういう流れにポイントを入れていただくと効果的な形になるのではないかなというふうに思っておるんですが、その辺はどうでしょう。

経済局長

きょう御説明をさせていただきました中で、街中観光というようなことで、まず、今の仙台の中で、平素何気なく見ているところにも観光資源があるんだなということが見れるような一つの取り組み。今御指摘がございました、それを縦軸で申し上げればまさに伊達以来の歴史的な文化、伝統と、こういったところがうまく現在の仙台のまちの中で融合した形で見ていただければ今までと違った目でも見ていただけると、そういう3カ月にしていかなければいけないんだらうと思います。そういう中で、今でもそうでございますけれども、る一歩するには博物館を經由していただいておりますので、改めて今回のキャンペーンの絡みの中で、いろんな伊達の紹介も含めて理解が深まる企画をつくれるかも、あわせて対応してまいりたいと思います。

池田友信委員

そこで、博物館の中でも論議しているのですが、やはり博物館のイメージというものをかたい形ではなくて、もっとソフトでわかりやすく、親しめるような展示の仕方も今、論議をしているんですけれども、その中で史実のものを展示するということがあるんですが、もっとぎゅっと凝縮した形で、例えば短いビデオの中で、実際に展示物を見る前に、頭の中で整理をして受けとめていただいて展示を見れば、ああ、この時代はこういう背景があったのかというような、わかりやすくコンパクトなものをつくれないものかどうか博物館でもいろいろ論議しているんです。博物館の方でも予算がなくて苦慮しているようですが、これはですね、博物館が持つものというよりは、私はこのDCの期間をきっかけに、その後も展開していくためにはやはり仙台市の施設の中で、主な施設、人が集まるところにそういう短めに編集したビデオを備えて、それを見て、じゃ、あちらも行こう、あちらも見てみたいというふうな形に、仙台を魅力ある形に紹介する一つの資材を経済局の観光交流課でつくっておくことも、これは大変必要なことではないかなというふうに思うんです。

これは今すぐでなくても、期間を過ぎても、私はいいと思うんです。そうい

う部分を博物館だけでなく経済局も一緒になって、具体的なコンパクトなものをつくるためには、史実と相反するものではあれですから、ぜひ博物館と共同してつくりましょうとか、そんな形でつくったものを一つの仙台の観光PR用のビデオというような形で考えることも必要ではないかなと感じておったんですが、その辺、御見解を聞ければ。

経済局長

10月が始まってしまえば、何と申しますか自然的に展開していくということではなくて、その後につながるような形で、その後に向けての問題意識をどう持つのかということもあろうかと思いますので、今の御指摘のような新たな展開が可能かどうかとか、先ほど高見委員からもございました全体の入り込みの問題とかを、この3カ月間を後につなげるような形で把握をきちっとしながら、その後の企画に生かしていければというふうに考えております。

池田友信委員

ぜひ考えていただきたいと思います。

実は、我が会派の方でDCの取り組みと、DC後の状況はどうかということ、会津若松市に行ってきたんですが、行政側も非常に熱心に掘り起こしを民間の方々に、行政の担当者が必死になって協力を要請して、そして運動体ができ、その運動体はそのOBの方を中心に町並みを変えていったんですね。今までは会津若松というと鶴ヶ城とか温泉まちとか、そちらの方ばかりだったんですけど、会津のまちを見てほしいと、こういうことで、DC後の中でも町並み形成に民間の方が立ち上がって、そしてその町並みを見るための動きが今、全体的に変わってきているんですね。そういう形で今後は単独でもこれは今後も展開しようということでJRとまた一緒になって、DC後の中でも単独でいろんな形で運動しております。要はそんな形で考えていくと、仙台の中でも掘り起こせばうねりになるような地域の開発とか、特色を持つまちづくりとか、あるいは文化の状況とか、その掘り起こしを含めて、ぜひ取り組むことが必要ではないかと。特に食の問題でむすび丸がいるんですが、正宗の晩年の江戸屋敷の中でのやり方は、いかに仙台藩を守るために、各藩の理解と協力を得るために、正宗がトイレで一生懸命グルメの献立を計画して、あすはこの料理、あさってはこの料理で、だれだれを呼べというような感じでやっていた事実もあるようで、伊達屋敷を発掘するとそういった食材の骨などが出てきたりしておりますけれども、やはりそのグルメの伊達イズムというのか、そんなことが結びつくいいチャンスだと思いますし、そんなことも含めて、民間で動ける、そういったことのきっかけになるような展開に結びつくようにぜひ取り組んでほし

いということを申し上げて終わります。